

山梨県の植生

Vegetation der Präfektur Yamanashi

調査者

宮脇 昭・鈴木邦雄・藤原一絵・原田 洋・佐々木寧

von

Akira MIYAWAKI, Kunio SUZUKI, Kazue FUJIWARA,
Hiroshi HARADA und Yasushi SASAKI

調査協力者

奥田重俊・中村幸人・右手和夫・大山弘子・井上香世子・箕輪隆一

Unter Mitwirkung von

S. OKUDA, Y. NAKAMURA, K. UDE, Hiroko OHYAMA
Kayoko INOUE u. R. MINOWA

1977.3.

山 梨 県

Präfektur Yamanashi/Japan

山梨県の植生

Vegetation der Präfektur Yamanashi

調査者

宮脇 昭¹⁾・鈴木邦雄¹⁾・藤原一絵¹⁾・原田 洋²⁾・佐々木寧¹⁾

調査協力者

奥田重俊¹⁾・中村幸人¹⁾・右手和夫³⁾・大山弘子¹⁾・井上香世子⁴⁾・箕輪隆一¹⁾

Von

Akira MIYAWAKI¹⁾, Kunio SUZUKI¹⁾, Kazue FUJIWARA¹⁾,
Hiroshi HARADA²⁾ und Yasushi SASAKI¹⁾

Unter Mitwirkung von S. OKUDA¹⁾, Y. NAKAMURA²⁾, K. UDE³⁾,
Hiroko OHYAMA¹⁾, Kayoko INOUE¹⁾ u. R. MINOWA¹⁾

1977. 3.

Yamanashi/Japan

* Contributions from the Department of Vegetation Science, Institute of Environmental Science and Technology, Yokohama National University No. 42

- 1) 横浜国立大学環境科学研究センター植生学研究室 Dep. of Vegetation Science, Inst. Environmental Science and Technology, Yokohama National University, Yokohama.
- 2) 横浜国立大学環境科学研究センター土壌環境生物学研究室 Dep. of Soil Zoology, Inst. Environmental Science and Technology, Yokohama National University, Yokohama.
- 3) 東京都立瑞穂農芸高等学校 Mizuho-nogei High School, Tokyo.
- 4) 箱根町湿生花園 Hakone Botanical Garden of Wetland, Hakone.

序

山梨県は、本州のほぼ中央に位置し、富士山をはじめとする山岳、湖沼、溪谷に恵まれ、県土の全域が美しい山河と緑におおわれており、標高差が著しいため、植物の種類もきわめて多く、この豊かな自然は、全国に誇りうるものであります。

しかし、最近、経済、社会の進展、市街地の拡大などによって緑地が失われ、貴重な自然が損なわれる傾向がみられております。

自然は、現在および将来の県民のための限られた資源であり、快適な県民生活を営むうえの基盤でありますので、この優れた自然を末永く保護保存し、次代に引き継ぐことは県民の責務であると考えております。

県は、昭和46年、山梨県自然環境保全条例を制定し、自然環境保全地区等の指定を進めると同時に自然環境保全に関連する各種の基礎調査を実施してまいりました。

この山梨県植生図は、昭和47年以来、山梨県植生調査研究会の協力を得て植物社会学の視野から調査・研究されたものであります。

今後、この植生図によって山梨県の植生に対する理解を深め、県土の土地利用、都市計画、自然保護、環境緑化等の諸施策を進めるうえで、活用されることを望むものであります。

おわりに、本調査にご尽力いただきました横浜国立大学環境科学研究センター宮脇 昭教授をはじめ関係者の皆様に深く感謝申しあげる次第であります。

昭和52年 3月

山梨県知事 田 辺 国 男

目 次

Inhalt

序 Vorwort

はじめに Einleitung 9

I 山梨県の自然環境

Natürliche Umweltsbedingungen in der Präfektur Yamanashi11

1. 位置・地形12

2. 地 質14

3. 気 候15

II 植生概観 Übersicht über die Vegetation20

III 調査対象と方法 Methoden und Gegenstände der Untersuchungen25

1. 植生調査法25

(1) 植生調査25

(2) 群落組成表の作製28

2. 植生図化29

(1) 植生図とその目的29

(2) 原植生復元図30

(3) 現存植生図31

(4) 現在の潜在自然植生図31

(5) 植生図とその利用例32

IV 植生単位

Vegetationseinheiten34

A. 自然植生 Natürliche Gesellschaften34

a. コマクサーイワツメクサクラス域 (高山帯)

Dicentro-Stellarietea nipponicae-Gebiet (Alpine Stufe)34
(inkl. *Vaccinio-Piceetea japonicae* p.p.)

1. タカネピランジーミヤマミミナグサ群集

Melandrio-Cerastetum schizopetalae35

2. イワスゲーイワツメクサ群落

Carex stenantha-Stellaria nipponica-Gesellschaft36

3. コマクサータカネスミレ群集

	Dicentro-Violetum crassae	37
4.	アオノツガザクラ群団 Phyllodocion aleuticae	39
5.	オヤマノエンドウヒゲハリスゲ群集 Oxytropio-Kobresietum myrosuroidi	40
6.	コメバツガザクラミネズオウ群集 Arcterio-Loiseleurietum	44
7.	コケモモハイマツ群集 Vaccinio-Pinetum pumilae	45
b.	コケモモトウヒクラス域 (亜高山帯) Vaccinio-Piceetea japonicae-Gebiet (Subalpine Stufe)	51
8.	シラビソオオシラビソ群集 Abietum veitchii-mariesii	52
9.	カラマツ群落 Larix leptolepis-Gesellschaft	56
10.	ミヤマハンノキダケカンバ群集 Alno-Betuletum ermanii	57
11.	フサガヤーヒロハカツラ群集 Cinnalatifolia-Cercidiphyllum magnificum-Ass.	60
12.	オオバヤナギードロノキ群集 Toisuso-Populetum maximowiczii	61
13.	センジョウアザミミヤマシシウド群集 Cirsio senjoensis-Angelicetum pubescentis matsumurae	64
14.	フジハタザオオンタデ群集 Arabido-Polygonetum weyrichii alpinae	66
15.	チョウジコメツツジ群集 Rhododendretum tschonoskii tetramerum	68
16.	ウラハグサーサラサドウダン群落 Hakonechloa macra-Enkianthus campanulatus-Gesellschaft	70
c.	ブナクラス域 (山地帯) Fagetea crenatae-Gebiet (Montane Stufe)	71
17.	ウラジロモミコメツガ群落 Abies homolepis-Tsuga diversifolia-Gesellschaft	72
18.	オオモミジガサーブナ群集 Miricacalio-Fagetum crenatae	76
19.	ヤマボウシブナ群集	

	Corno-Fagetum crenatae	78
20.	ハクウンボクーイヌブナ群落 <i>Styrax obassia-Fagus japonica</i> -Gesellschaft.....	80
21.	シノブカグマーヒノキ群集 <i>Rumohro-Chamaecyparitetum obtusae</i>	84
22.	ハリモミ群落 <i>Picea polita</i> -Gesellschaft	86
23.	コカンスゲーツガ群集 <i>Carici-Tsugetum sieboldii</i>	87
24.	ヤマツツジーアカマツ群集 <i>Rhododendro kaempferi-Pinetum densiflorae</i>	89
25.	アブラチャンーケヤキ群集 <i>Parabenzopraecox-Zelkovetum</i>	91
26.	タマアジサイーフサザクラ群集 <i>Hydrangeo-Eupteletum polyandrae</i>	95
27.	ミヤマクマワラビーシオジ群集 <i>Dryopterio-Fraxinetum spaethianae</i>	98
28.	ツルシロカネソウーシオジ群集 <i>Isopyro-Fraxinetum spaethianae</i>	98
29.	ニシキウツギ群落他 <i>Weigela decora</i> -Gesellschaft u. a.	99
30.	アカソーイタドリ群落, クサコアカソ群落他 (林縁草本植物群落) <i>Boehmeria tricuspis-Polygonum cuspidatum</i> -Gesellschaft, <i>Boehmeria tricuspis</i> var. <i>unicuspis</i> -Gesellschaft u. a. (Saumgesellschaften)	100
31.	タチコゴメグサーミヤコザサ群落およびスズランーシモツケソウ群落 <i>Euphrasia maximowiczii-Sasa nipponica</i> -Gesellschaft und <i>Convallaria keiskei-Filipendula multijuga</i> -Gesellschaft	103
32.	フジアザミーヤマホタルブクロ群集 <i>Cirsio-Campanuletum hondoensis</i>	106
33.	オオヌマハリイ群落 <i>Eleocharis mamillata</i> var. <i>cyclocarpa</i> -Gesellschaft.....	110
d.	ヤブツバキクラス域 (丘陵・低地帯) <i>Camellieta japonicae</i> -Gebiet (Colline und planare Stufe).....	111
34.	モミ群落 <i>Abies firma</i> -Gesellschaft	112
35.	ウラジロガシーアラカン群落 <i>Quercus salicina-Quercus glauca</i> -Gesellschaft.....	114

36.	シラカン群集 <i>Quercetum myrsinaefoliae</i>	116
37.	イノデータブ群集 <i>Polysticho-Machiletum thunbergii</i>	117
38.	イロハモミジーケヤキ群集 <i>Acer-Zelkovetum</i>	118
39.	タチヤナギ群落 <i>Salix subfragilis</i> -Gesellschaft	120
40.	ツルヨシ群集 <i>Phragmitetum japonicae</i>	122
41.	ウキヤガラマコモ群集, ヨシ群落他 <i>Scirpofluviatilis-Zizanietum latifoliae</i> , <i>Phragmites communis</i> -Gesellschaft u. a.	123
42.	ヒルムシロクラスおよびウキクサクラス <i>Potamogetonetea und Lemnetae</i>	125
B.	代償植生 Ersatzgesellschaften	126
43.	ネコシデータケカンバ群落 <i>Betula corylifolia-Betula ermanii</i> -Gesellschaft	127
44.	クリーミズナラ群集 <i>Castaneo-Quercetum crispae</i>	129
45.	クリーコナラ群集 <i>Castaneo-Quercetum serratae</i>	133
46.	レンゲツツジーシラカンバ群集 <i>Rhododendro-Betuletum platyphyllae</i>	135
47.	クサギーコナラ群集 <i>Quercetum acutissimo-serratae</i>	137
48.	クサギーアカメガンワ群団 <i>Clerodendro-Mallotium japonicae</i>	140
49.	シラビソ植林 <i>Abies veitchii</i> -Forst	141
50.	ウラジロモミ植林 <i>Abies homolepis</i> -Forst	142
51.	カラマツ植林 <i>Larix leptolepis</i> -Forst	143
52.	アカマツ植林 (一部アカマツ二次林) <i>Pinus densiflora</i> -Forst (inkl. sekundäre Wälder von <i>Pinus densiflora</i>) ...	145
53.	クロマツ植林	

	<i>Pinus thunbergii</i> -Forst	148
54.	スギ・ヒノキ植林 <i>Cryptomeria japonica-Chamaecyparis obtusa</i> -Forst	148
55.	ケヤマハンノキ植林 <i>Alnus hirsuta</i> -Forst	152
56.	オニグルミ植林 <i>Juglans ailanthifolia</i> -Forst	154
57.	ニセアカシア植林 <i>Robinia pseudo-acacia</i> -Forst.....	154
58.	モウソウチク・マダケ林 <i>Phyllostachys hetelocycla</i> var. <i>pubescens</i> - u. <i>Phyllostachys bambusoides</i> - Bestand	155
59.	クズーカナムグラ群落 <i>Pueraria lobata-Humulus scandens</i> -Gesellschaft.....	156
60.	ヤナギラン群落 <i>Epilobium angustifolium</i> -Gesellschaft	157
61.	シナノキイチゴートガスグリ群集, ヤマハハコ—ミヤマウラジロイチゴ群落 およびミヤマニガイイチゴ群落 <i>Rubus marmorato</i> - <i>Ribetum sachalinense</i> , <i>Anaphalis margaritacea</i> var. <i>angustior</i> - <i>Rubus yabei</i> -Gesellschaft und <i>Rubus</i> <i>microphyllus</i> var. <i>subcrataegifolius</i> -Gesellschaft.....	160
62.	アズマネザサーススキ群集 <i>Arundinario chino</i> - <i>Miscantheum sinensis</i>	163
63.	キバナカワラマツバーススキ群落 <i>Galium verum</i> var. <i>asiaticum</i> - <i>Miscanthus sinensis</i> -Gesellschaft.....	165
64.	ゲンノショウコ—シバ群集 <i>Geranio</i> - <i>Zoysietum japonicae</i>	167
65.	カモガヤ—オオアワガエリ群落 <i>Dactylis glomerata</i> - <i>Phleum pratense</i> -Gesellschaft	169
66.	ヒメムカシヨモギ—オオアレチノギク群落 <i>Erigeron canadensis</i> - <i>Erigeron sumatrensis</i> -Gesellschaft.....	171
67.	ナギナタコウジュ—ハチジョウナ群集およびカラスビジャク—ニシキソウ群集 <i>Elsholtzia patrinii</i> - <i>Sonchus brachyotis</i> -Assoziation und <i>Pinellia ternata</i> - <i>Euphorbia pseudo-chamaesyce</i> - Assoziation	172
68.	ミゾソバ—アシボソ群落他 <i>Polygonum thunbergii</i> - <i>Microstegium vimineum</i> var. <i>polystachyum</i> -	

	Gesellschaft u. a.	178
69.	ウリカワーコナギ群集 Sagittario-Monochorietum	179
C.	その他 Sonstiges	182
70.	市街地・工場地 Stadtareale mit Industrieanlagen und wenig Grünflächen	182
71.	緑の多い住宅地 Siedlungen mit standortsgemäßen Bäumen	182
72.	裸地・造成地 Nackter Boden und neue Baustellen	182
V	植生図 Vegetationskarte	183
A.	現存植生図 Karte der realen Vegetation	183
1.	概況	184
2.	ヤブツバキクラス域の植生配分	185
3.	ブナクラス域の植生配分	189
4.	コケモモトウヒクラス域およびコマクサーイワツメクサクラス域の植生配分	191
B.	潜在自然植生図 Karte der potentiell natürlichen Vegetation	193
1.	概況	194
2.	ヤブツバキクラス域の植生配分	195
3.	ブナクラス域の植生配分	198
4.	コケモモトウヒクラス域およびコマクサーイワツメクサクラス域の植生配分	200
VI	山梨県の緑の自然, 環境保全についての植生学的現状診断と提案 Vegetationskundliche Diagnose und Vorschläge für den grünreichen Natur- und Umweltschutz in der Präfektur Yamanashi	204
1.	高遠・八ヶ岳地区	206
2.	金峰山・三ツ峰地区	207
3.	韮崎・市野瀬地区	208
4.	御岳・昇仙峡地区	209
5.	都留・上野原地区	209
6.	丹波・五日市地区	210
7.	鰍沢・大河原地区	211
8.	身延・赤石岳地区	212
9.	山中湖・秦野地区	212

10. 富士山地区	214
11. 井川・南部・富士宮地区	214
VII 山梨県の緑の保全・創造についての考察.....	218
<i>Betrachtung über Schutz und Schaffung der neuen Vegetation in</i>	
<i>der Präfektur Yamanashi</i>	
VIII 摘 要	223
Zusammenfassung.....	229
文 献	235

はじめに

自然環境の保全を前提とした、間違いの少ない自然と人間の共存関係を樹立するためには自然の実体を生命集団の側から正しく把握しておくことがきわめて重要な前提条件となる。第二次大戦後の我が国の産業開発、都市開発、地域開発、さらには林業開発の多くが、一時的な経済効率の上昇、生活条件の便利さや、向上に対しては貢献した。しかし他方では自然破壊、産業公害の多発など人間の持続的な生存環境に対してはマイナス影響を顕在化しはじめている。とくに、新技術や莫大な資金が集中投資された新産業都市や大都市の中や、まわりでより深刻な環境破壊をもたらしている。

今までの開発、都市化、新産業立地化がすべて、そのままそこに住んでいる地域市民の生存環境を破たん、荒廃させた原因としては多くの人たちによって、それぞれの立場から論ぜられている。しかし、新しい自然と人間の豊かな生活を共存させるためには、基本的には人間もどれほど自然を開発し、産業を発展させても生きているかぎり多様な自然環境の中で、多彩な生物社会、安定した生態系(Ökosystem)の一員として、他の生物との共存関係の枠内でのみ持続的な生存の保証と固有の文化が創造できるのだという、対決から生態学的な共存への意識の変革が前提となる。

また今までの、時間をストップした現在の市民のあらゆる欲望を満足するための行政から、すべての人たちが一時的にはある程度の我慢を強要されても時間と共によりよく、より安定した多様な自然環境を確保し、失われているところでは積極的に回復する行政への転換が必要である。同時に地域の健全な利用、開発は、それぞれの立地の固有の自然環境の枠内で遠慮しながら行う。

このような自然と人間の共存関係を前提とした地域住民の生活環境の向上を図るためには、生命集団の側からの自然の実体を正しく把握しなければならない。

日本列島の中央部に位置する総面積 4463.48km² の山梨県は周囲を富士山(3776m)をはじめ北岳(3192m)、仙丈岳(3033m)、駒ヶ岳(2966m)、観音岳(2841m)、八ヶ岳(2899m)、さらには金峰山(2595m)以東の奥秩父連山に囲まれている。県の中央部に広い甲府盆地が位置する首都圏に接したもっとも豊かな自然環境にめぐまれている。

甲府盆地を流れる笛吹川、釜無川沿いの沖積低地、それをとり囲む山地との間の扇状地形などのそれぞれの立地に応じて特産物になっている甲州ブドウをはじめ果樹や沖積地の水田、扇状地、山足部のクワ畑などたくみな土地利用が行われてきた。

また山梨県は、県土の77%を林野面積が占めている。その中で民有林は54%、県有林は45%を占めており、林業が盛んである。同時に山岳部の自然度の高い地域は山梨県ではもとより、日本の最後の残された貴重な自然の聖域としての相対的な価値を高めている。

これら山地、特産物にめぐまれた山梨県は地域住民のよりよい生活条件、より豊かな経済を求めている開発、産業発展志向と、まもなく3000万人に達するであろう東京湾ぞいの首都圏中心部の、

いわゆる都市砂漠，産業砂漠地に住む人たちの失われた緑の郷土の代償としての本能的な，強烈的な自然志向による，いわゆる観光客としての来県者の殺到に対応した急速な開発，各種産業の急成長を迫られている。

山梨県民の明日の健全な生存環境を保証し，何時の時代にも，我が国に残された貴重で，かけがえのない，より相対的な価値の上る自然環境の主役は裸の大地を被っている植生である。主な景観形成者である植生は生態系（Ökosystem）の基本構成要素であり，都市砂漠化された立地の多様な環境創造のための生きた構築材料でもある。

局地的には問題があるにせよ，山梨県は全県的には日本列島全体としては首都圏にもっとも近いところで，もっとも緑豊かな自然環境がまだ残されている。しかし，これからの開発，産業化，都市化のやり方によっては，もっとも深刻な環境破壊をもたらす危険性も少なくない。

景観（Landschaft）やその主要構成要因としての植生には Ellenberg（1963）も指摘しているように人間の干渉に敏感で，復元の困難な“弱い景観”と，ある程度の人間の干渉に耐え得る“強い景観”とがある。

山梨県下の，とくに山岳部に自然植生や自然景観が残されているのは，単に利用が困難であったからだけではない。亜高山帯以高の高山帯，溪谷部，急斜面，尾根部などは一般に人間の干渉に敏感な弱い部分である。したがって，宗教的なタブー意識などによってまもられてきた。

現代の新しい技術を駆使すれば高山の山頂まで車道を建設し，各種の施設をつくることも可能である。また谷の反対側の山頂部までの自然林を皆伐・搬出することも可能である。しかし，それぞれの立地固有の自然の許容限界を超えた産業の発展，地域開発はしばしば回復不可能なほどの自然や景観の変化，破壊，さらには多様な人間の生存環境の画一化・貪化を強要する。

これからの無理のない自然と県民の共存関係を前提としたよりよい都市づくり，生活環境の整備には生命集団の側からの自然の調査・診断がすべての計画・施策の前提となる。

山梨県では全国47都道府県の中で，また国の各省庁や各地方公共団体がほとんど行っていなかった1972年度から全県土にわたる本格的な現地踏査を基礎とした植物社会学的な植生調査，現存植生図および潜在自然植生図の作製が計画・実施された。

時代を先取りし，県土の自然環境の保全と間違いの少ない利用の基礎づくりのための3か年計画による緑の自然診断の調査・研究を指示された田辺国男山梨県知事の識見と全調査期間を通じての御援助，御激励に深い敬意を表したい。

本調査研究およびそのとりまとめに関しては，山梨県の関係各機関をはじめ多くの方々に御協力をいただいた。田辺知事をはじめ県民生活局，自然保護課職員並びに県内外の調査に御協力，御援助，御便宜を戴いた皆様に厚御礼申しあげます。また現地調査，室内整理作業を通じて横浜国立大学環境科学研究センター助教授奥田重俊氏を始め，望月陸夫，斎藤一子，成沢啓子，右手和夫，原田敦子，井上香世子，持田幸良，中村幸人，山田政幸，箕輪隆一の各氏に御協力いただいた。記して謝意を表したい。